

作成日： 2016年2月1日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名：特製スケルシン 95

会社名： 株式会社ニチノ一緑化
 住 所： 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 14 番 4 号 岡谷ビル 6 階
 担当部門： 緑化造園部
 T E L： 03-3808-2281
 F A X： 03-3808-2360
 休日の連絡先：同上
 用途及び使用上の制限：農薬
 MSDS番号： 0004

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|-----------|-------------------|--------|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 | 区分外 |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口) | 区分 5 |
| | 急性毒性(経皮) | 区分 4 |
| | 急性毒性(吸入：ガス) | 分類対象外 |
| | 急性毒性(吸入：蒸気) | 分類対象外 |
| | 皮膚腐食性・刺激性 | 区分外 |
| | 眼に対する重篤な損傷性・刺激性 | 区分外 |
| | 呼吸器感作性 | 分類できない |
| 環境に対する有害性 | 皮膚感作性 | 区分外 |
| | 生殖毒性 | 分類できない |
| | 特定標的臓器/全身毒性(単回暴露) | 分類できない |
| | 特定標的臓器/全身毒性(反復暴露) | 分類できない |
| | 水生環境有害性(急性) | 区分 1 |
| | 水生環境有害性(慢性) | 区分 1 |

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

警告
飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に強い毒性

注意書き

【安全対策】

- 環境への放出を避けること。

【救急措置】

- 気分が悪いときは医師の診断を受けること。
- 暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断を受けること。
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物や容器を都道府県知事の許可を得た専門の産業廃棄物処理業者に業務を委託すること。

3. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合製品
 有効成分化学名(一般名) : マシン油 95.0%
 含有量 (その他成分) : 乳化剤等 1.6%

成分及び含有量 :

| 成分 | 含有量 | CAS No. | PRTR 法 | 安衛法 No. | 化審法 No. |
|--------------|-------|------------|--------|---------|---------|
| マシン油 | 95.0% | - | - | 9-169 | - |
| POE アルキルエーテル | 1.6% | 69013-19-0 | 1-407 | - | 7-97 |

4. 応急措置

- 眼に入った場合 : 直ちに多量の清浄な流水で 15 分以上洗浄した後、異常があれば医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに石けんで良く洗い落とすこと。
 作業後は衣服等を交換し、着用していた衣服は他の物と分けて洗濯すること。異常があれば速やかに医師の手当てを受けること。
- 吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、身体を毛布等で覆い保温し安静に務め、異常が続く場合は速やかに医師の手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄する。無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 泡、粉末、二酸化炭素
- 使ってはならない消化剤 : 水を消化に用いてはならない
- 火災時の特有の有害性 : 特になし
- 特有の消火法 : 速やかに火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消化する。
 : 容器及び周辺に散水して冷却する。
 : 消火作業は風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外立ち入り禁止にする。
 : 保護液の処理を行う際には保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。
 : 漏出液が河川、養殖池等へ流れ込まないように注意すること。
- 除去方法(回収、中和) : 漏出液は吸着剤(オガクズ、土砂等)に付着させ掃き集める。
 : 密封できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : ラベルをよく読む。記載以外に使用しない。
 : 取扱いは換気良い場所で行い、作業場の換気は十分行う。
 : 屋外での取扱いはなるべく風上から作業する。
 取扱いの都度、容器を密閉する。
 : 眼、皮膚、衣類に付けないこと。
 保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 安全取扱い注意事項 : 高温、火気の近くで取り扱ってはならない。
- 保管 : 食物、飲料等と区別し、火気、直射日光を避け、鍵のかかるなるべく

く低温で乾燥した場所に密閉して保管すること。

: 小児の手の届く所へ置かない。

安全な容器包装材料 : ポリエチレン瓶

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 情報なし
 暴露限界値 管理濃度 : 情報なし
 許容濃度 : 情報なし
 測定方法 : 情報なし
 保護具 呼吸器用具 : 防護マスク着用
 保護眼鏡 : 着用
 保護手袋 : 不浸透性手袋着用
 保護衣 : 不浸透性防除衣着用

9. 物理的及び化学的性質

外観 : 淡黄色澄明可乳化油状液体
 臭い : 無臭
 pH : 6.8 (1%水溶液)
 融点・凝固点 : -5°C以下
 沸点、初期点及び沸騰範囲 : 情報なし
 引火点 : 240°C付近
 発火点 : 情報なし
 燃焼点 : 情報なし
 燃焼又は爆発範囲 : 情報なし
 蒸気圧 : 情報なし
 密度・比重 : 0.86 (20°C)
 溶解度 : 情報なし
 オクタノール/水分配係数 : 情報なし
 分解温度 : 情報なし
 解離定数 : 情報なし
 粘度 : 情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の条件下では安定。
 危険有害反応可能性 : 情報なし
 避けるべき条件 : 情報なし
 混触危険物質 : 情報なし
 危険有害な分解生成物 : 情報なし

11. 有害性情報

急性経口毒性 : ラット♀ >5000mg/kg
 急性経皮毒性 : ラット♂♀ >2000mg/kg
 急性吸入毒性(ガス) : 適用外
 急性吸入毒性(蒸気) : 適用外
 皮膚腐食性/刺激性 : ウサギ 刺激性なし
 眼刺激性 : ウサギ ごく軽微な刺激性
 呼吸器感作性 : 情報なし
 皮膚感作性 : モルモット 陰性
 生殖細胞変異原性 : 情報なし
 発がん性 : 情報なし
 生殖毒性 : 情報なし
 特定標的臓器・全身毒性 : 情報なし
 (単回暴露)
 特定標的臓器・全身毒性 : 情報なし

(反復暴露)

吸引性呼吸器有害性 : 情報なし

1 2. 環境影響情報

| | | |
|---------|---|--------|
| 生態毒性 | : コイ LC ₅₀ 値/96hr (mg/L) | 100ppm |
| | : オオミジンコ EC ₅₀ 値/48hr (mg/L) | 0.1ppm |
| | : 緑藻 EbC ₅₀ 値/72hr (mg/L) | 29ppm |
| 残留性/分解性 | : 情報なし | |
| 生体蓄積性 | : 情報なし | |
| 土壤中の移動性 | : 情報なし | |
| その他 | : 情報なし | |

1 3. 廃棄上の注意

使用残りの農薬を不注意に廃棄したり、不要になった農薬を放置したりすると思わぬ事故を引き起こすことがあるので、その処理に当っては関係法令を遵守し適正な処理を行うこと。

1 4. 輸送上の注意

| | |
|------|---|
| 国際規制 | : 国連分類 該当なし |
| | : 国連番号 該当なし |
| 国内規制 | : 国内法（消防法、毒劇法）の規定に従った容器、積載方法により輸送する。 |
| | : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 |
| | : 引火性液体なので火気厳禁 |
| | : 車両、船舶には保護法（手袋、メガネ、マスク等）を常備する他、緊急時の処理に必要な消火器、工具等を備えておく。 |

1 5. 適用法令

| | |
|---------------|------------------------|
| 化学物質排出把握管理促進法 | : POE アルキルエーテル (1-407) |
| 労働安全衛生法 | : 鉱油 (9-168) |
| 化審法 | : POE アルキルエーテル (7-97) |
| 毒物劇物取締法 | : 該当なし |
| 消防法 | : 第四類引火性液体 第4石油類 |
| 農薬取締法 | : 登録番号 第19159号 |

1 6. その他の情報

| | |
|------|-------------------|
| 引用文献 | : 最新農薬データブック |
| | : 製品評価技術基盤機構のHP参照 |

この製品安全データシートは現時点で入手可能な資料等をもとに作成していますが、物理化学的物質、危険有毒性等に関しては、いかなる保証も成すものではありません。また注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いを行う場合には自らの責任において用途に適した処置を講ずることが必要であることを理解した上で活用して下さい。